

まちごとまきこむEXPOマガジン

# 万博世代

若手建築家  
20施設  
音声ガイド付き



EXPO GENERATION

特集  
建築家の声を聞け!

TAKE FREE

vol.

04

2025.9

日本語 / English

海外パビリオンインタビュー  
マレーシア&セルビア  
Malaysia & Serbia

# 大阪・関西万博

## 若手建築家20組を選ぶ

### 公募に参加した理由を教えてください。

今の社会情勢を考えると建築に期待されることが少なくなっていると感じていました。万博のコンテクストの一つであるチャレンジや実験といった「挑戦できること」が、これからの建築に対する希望や期待の可能性がまた描ける機会なのではないかと思い、応募しました。

#### 休憩所2 石のランドスケープ

工藤浩平建築設計事務所  
工藤浩平

20歳頃までを大阪の北摂で過ごしました。1970年の大阪万博が盛り上がったことを身近に感じていたこともあり、何も悩むことなくプロポーザルに参加していました。大変そうなことは想像しつつも、祭りに参加できることに期待しました。

#### サテライトスタジオ東 時木(とき)の積層

ナノメートルアーキテクチャー  
三谷裕樹

幼少期から博覧会、そしてその遺構が身近にありました。鶴見で暮らしていたので、90年の国際花と緑の博覧会には何度も訪れ、リベスキンドのフォリーをはじめ、いくつかのパヴィリオンでの体験が今でも記憶に残っています。そんな子ども達の原風景となるような体験をつくり、建築を未来につなげたいという思いから、参加に至りました。

#### 休憩所4 Resting Pavilion in Osaka Expo

Niimori Jamison  
新森雄大

#### トイレ5 積み木のような建築

米澤隆建築設計事務所  
米澤隆

現在の日本社会は成熟化するとともに、閉塞感も蔓延しています。万博は未来社会の実験場であることから、挑戦することができ、その社会的な影響力の大きさからメッセージを発することもできます。この先の建築や社会のあり方を変えるチャンスになると考え参加しました。

## 万博世代 interview

毎月、この時代を生きる人々を「万博世代」と名づけ、活動やそこへかける情熱を届ける「万博世代interview」。今回は、万博会場内20施設の設計に携わった建築家たちが集うイベントが開かれると耳にし、茨木市の複合施設「おにクル」へ。当日会場で出会った7名に、大阪・関西万博の公募へ参加した背景を聞いてみました。イベントの様子は、特集でお届けします！

現在の日本社会は成熟化するとともに、閉塞感も蔓延しています。万博は未来社会の実験場であることから、挑戦することができ、その社会的な影響力の大きさからメッセージを発することもできます。この先の建築や社会のあり方を変えるチャンスになると考え参加しました。

## 特集

# たぶん、未来をつくっている。

# 建築家の声を聞け!

会場内で見かける、個性豊かなトイレや休憩所、ステージ、スタジオの数々……これらの施設を設計したのが、若手建築家たちだということを知っていますか？ 万博という期間限定の会場のために生まれたアイデアや、広がった建築の可能性は、未来をつくる道しるべになるかもしれません。そんな実験的な建築を試みるプロジェクトが、ここ夢洲を舞台に行われました。でも、その背景や真意は、まだまだお客さんには届いてないような…？ そんなもったいない状況をなんとかしたい！ そこで今回の「万博世代」では、それぞれの若手建築家の声をできるだけ削ぎ落とさずに、みなさんへお届けしようと思います。

**Q** 万博のトイレや休憩場って  
なんで特徴的でバラバラなんですか？

**A** 万博開催の3年前、1980年1月1日以降生まれの  
若手建築家を対象とした公募がありました。

2022年3月16日に  
こんなプレスリリースが  
掲載されました

### 大阪・関西万博会場内の「休憩所」「トイレ」等 20施設を対象に設計を行う若手建築家20名を募集

#### 概要(要約)

会場内の「休憩所」「展示施設」「ギャラリー」「ポップアップステージ」「サテライトスタジオ」「トイレ」計20施設の設計業務を行う若手建築家20名を募集します。今後の活躍が期待される若手建築家に、「多様でありながら、ひとつ」という会場デザインコンセプトに沿い、SDGs(持続可能な開発目標)達成につながる、意欲的かつ大胆な提案をしてもらい、個性豊かで魅力的な博覧会施設を創出することを目的としています。

#### 名称

2025年日本国際博覧会 休憩所他 設計業務

#### 応募資格

応募者となる若手建築家は1980年1月1日以降生まれの一級建築士事務所の開設者であり、建築士法に基づく一級建築士の資格取得者であることとしています。

#### 評価委員

平田晃久：建築家・京都大学教授  
藤本壮介：建築家・2025年日本国際博覧会 会場デザインプロデューサー  
吉村靖孝：建築家・早稲田大学教授

募集開始

結果発表

実際のプレスリリース  
全文はこちら▶



評価委員/  
2025年日本国際博覧会  
会場デザインプロデューサー

### 藤本壮介さんから 若手建築家への メッセージ



20組の建築や建築家としての活動を一概に表現することはとても困難です。その中で散えて彼らの素晴らしさをひとつ上げるとすると、万博をはじめ、複雑な社会の中で建築が生み出される瞬間に、自らの身を投じる当事者性そのものと言えるでしょう。これからの時代、ただ建築をつくるだけでなく、建築が社会の中でどう新しい価値を生んでいくのが重要になってきます。そのためには、これまでの価値観を超えた試みが必要です。それは、何かの与件に乗っ取って建築を設計するだけでなく、与件そのものを一緒に考え直す、素材や技術の新たな使い方を考案する、建設の在り方をデザインする、役目を終えた建築を次の未来に引き継ぐ、など、従来の建築家の職能を超えた社会との関わり方そのものが総体として立ち現れたものなのです。彼らが万博を通して試行し実践してきたことは、次の時代の新しい建築の萌芽となるでしょう。

愛・地球博の頃は、まだ近くの大学に通う学生で、興味が持たず数時間滞在して帰ってしまいました。自身も大人になり興味の幅が増え「始まる前から人を巻き込み、自分ごとになるようなことをして、今回はみんなで楽しみたい!」と思ったんです。

#### サテライトスタジオ東 時木(とき)の積層

ナノメートルアーキテクチャー  
野中あつみ

共同設計の大野君の「万博挑戦しよう!」の一言で参加を決意。私にとっては未知の世界で不安と期待を抱えつつ、個性バンパンの2人と組めば何かすごいことができること間違いなし!と感じ、公募に踏み出しました。

#### トイレ2 地球の形跡

studio mlkke  
小林広美

万博という半年で無くなってしまいう建築や枠組みは100%賛成できるものではありませんが、まずこのチャンスに偶然参加できる年齢にあることは、「参加することで変えていける」能動的な挑戦ができる立場にあると考えたためです。

#### トイレ2 地球の形跡

Yurica Design and Architecture  
竹村優里佳



### 展示施設「フューチャーライフVレッジ」

小室 舞 (KOMPAS)

「非中心・離散」を掲げた会場構成を取り入れた展示施設。夢洲の湿地を模した中庭を中心に、木の葉のような屋根が連なる半屋外空間が散らばり、心地よい森のような場を創出。



### ギャラリー Gallery Triggering

金野千恵 (teco)

廃棄食材からつくるベジタブルコンクリートで“匂いある建築”を実現。大小異なる内部空間と野菜スケールのピースが集積した大屋根の半屋外空間が多様なアート空間をつくる。



### 休憩所2 石のランドスケープ

工藤浩平 (工藤浩平建築設計事務所)

大阪城にも使われた瀬戸内産の石を空へと持ち上げ、日除のパーゴラとして活用。会期後は海へ還元することで大地、空、海をまたいで時間をリレーする石の仮設建築物として設計した。



### トイレ4 土の峡谷

浜田晶則 (AHA 浜田晶則建築設計事務所)

人・植物・環境を土の壁でつなぐ峡谷のような建築。土を3Dプリンターで出力し壁やランドスケープを構成。自然との共生や循環を考える現代の人間の果のような建築像と社会を提示する。



### ポップアップステージ西 祝祭のための原初

三井 嶺 (三井嶺建築設計事務所)

柱や梁といった最小単位でステージという場を生む建築。松の丸太の梁は力強さと優しさをもち、松葉葺きの屋根はパタパタと動いて祝祭を演出。多くの人が参加し当事者となることで祝祭のあるべき姿を取り戻す。



### トイレ3 Responsive structure

小侯裕亮 (小侯裕亮建築設計事務所 / new building office)

EXPO 70'で実験された空気膜構造をアップデートした風船のような屋根は、柔らかい日差しを透過し風速に応じて形を変化させて維持コストを抑制。膜屋根上部に水を溜めて冷却する仕組みも持つ。



### 休憩所1 fuku fuku

大西麻貴 (o+h) 百田有希 (o+h)

五感で感じられる生き物のような建築を計画。毛皮のような屋根や布の開口部、すべすべな壁が親しみを生む。組み立てが容易な円形平面の大屋根空間は、視覚、触覚、聴覚、嗅覚などを醸発するインクルーシブな空間となる。



### トイレ2 地球の形跡

小林広美 (studio mlkke) 竹村優里佳 (Yurica Design and Architecture)

大野 宏 (Studio on\_site)

大坂城再建時に切り出されたが利用されなかった「残念石」と呼ばれる石をデジタル技術を利用してそのまま建築に取り込む。400年もの前の人の痕跡が残る「残念石」は、人間の力強さを感じられる。



### サテライトスタジオ西 イカダを作ったどうか向こう側へ渡り、帰る

佐藤研吾 (一般社団法人コロガロウ / 佐藤研吾建築設計事務所)

ウォータープラザ沿いに建つテレビ局のスタジオ。大きな窓から海を望み前面に広場を設け人々の居場所をつくる。福島県産材を用いた木造で多くの部品が再利用可能、会期後は福島に移築し地域の拠点施設となる予定。



### トイレ8 万博トイレのあたらしい「かた」

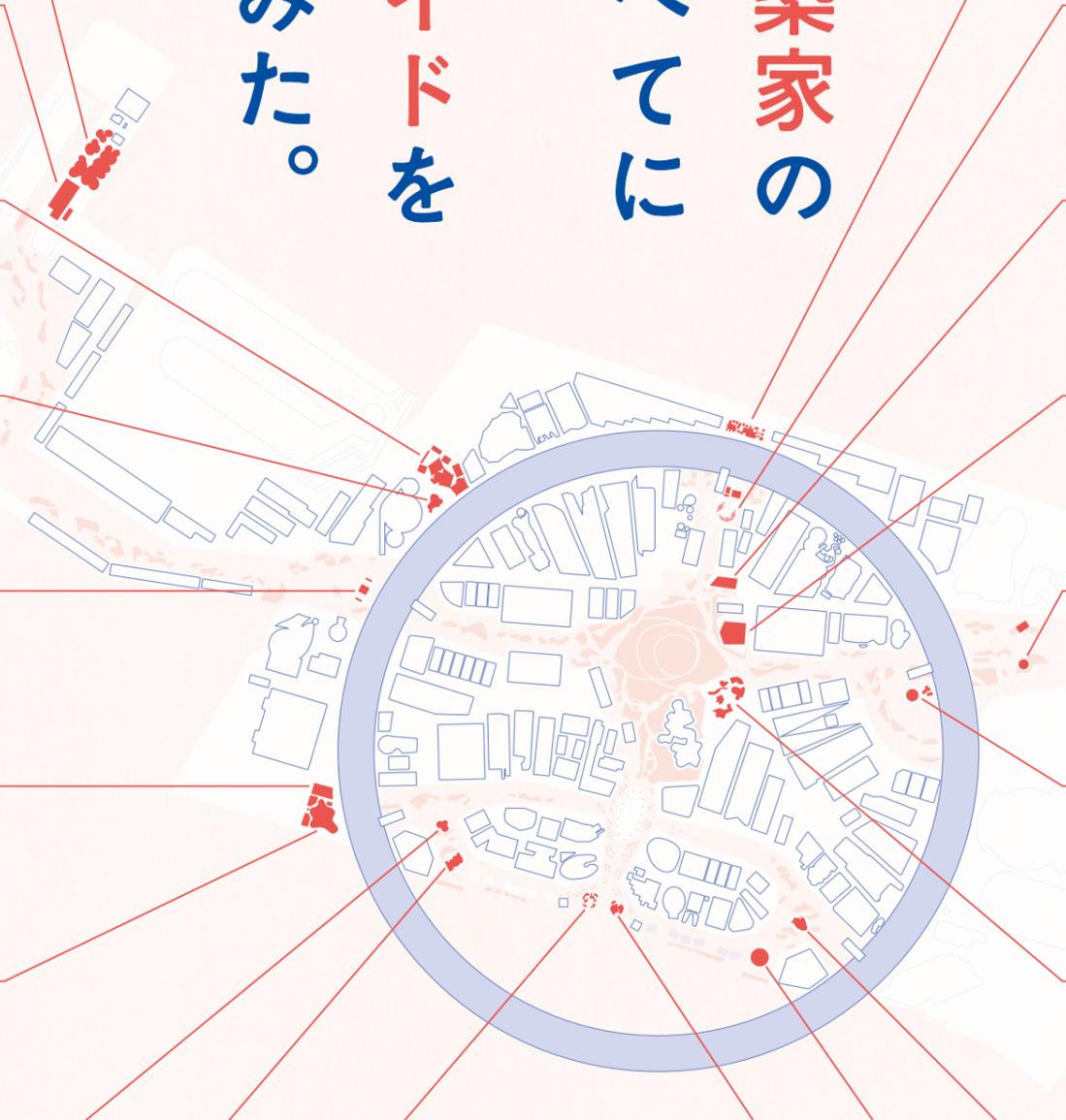
斎藤信吾 (斎藤信吾建築設計事務所) 根本友樹 (斎藤信吾建築設計事務所)

田代夢々 (Ateliers Mumu Tashiro)

文化・国籍・宗教・身体・性や個性も多様化する中、従来の標準的な「建築計画」を解体し新しい「かた」から考えた。視覚・聴覚障がい・車椅子利用者ともワークショップを行い、さまざまな配慮をした計画を行う。



# 若手建築家の建築すべてに音声ガイドを作ってみた。



### トイレ5 積み木のような建築

米澤 隆 (米澤隆建築設計事務所)

積み木のように組み立てたユニット建築は閉幕後に解体・移設でき、必要に応じて組み換え可能。カラフルなユニットを緩やかに連帯させ「多様でありながら、ひとつ」を体現する。



### ポップアップステージ北 森の途中

佐々木 慧 (axonomic)

森の中のような木々に囲まれたイベント広場。森から切り出した未加工の丸太材を会期中に自然乾燥させることで、閉幕後に再び市場に流通させることを試みる。



### トイレ6 One Water

隈 翔平 (KUMA&ELSA) エルサ・エスコベド (KUMA&ELSA)

雨水の循環を通じて人と水の多様な出会いを生み、水にまつわる現象を体感できる。丘のような屋根を登ると「静けさの森」を望み、水に育まれる豊かな風景が広がる。



### 休憩所4 Resting Pavilion in Osaka Expo

服部大祐 (MIDW) 新森雄大 (Niimori Jamison)

土の掘削、それを型枠にした鉄筋のパーゴラ屋根でつくられた「多様な他者と共にある広場」は、人間の目覚ましい進歩と引き換えに生まれた「断絶」を弱め、共に生きる感覚を思い起こさせる。



### ポップアップステージ東外 Ring Pavilion 2025

萬代基介 (萬代基介建築設計事務所)

最小限のリングフレームで最大の空間を生むドーム建築。外皮は映像投影によって生命体のように変化し、穿たれた穴から木々が内部にも生きる。移転再建築が可能で会期後も利用できる。



### ポップアップステージ東内 雲の屋根

桐 圭佑 (KIRI ARCHITECTS)

雲は形を変えながら日差しを柔らかく遮り、ステージと客席を覆って一体感を演出。海を越え大陸を越えて世界とつながる存在である雲によって、多様でありながらひとつである屋根を実現。



### 休憩所3 静けさの森に隣接する休憩所

山田紗子 (山田紗子建築設計事務所)

静けさの森に続く樹木群とユニークな人工物が寄り集まる休憩所。植物や建物の色彩と形がこの場に編み込まれ、独自のテキスタイルを伴う生態系が立ち上がり、新しい世界の捉え方へと導いてくれる。



### トイレ1 夢洲の庭

井上 岳 (GROUP) 棗田久美子 (GROUP) 齋藤直紀 (GROUP)

中井由梨 (GROUP) 赤塚 健 (GROUP)

利用者が入口から各個室を経て出口から出ると、万博前の夢洲にあった生態系をアーカイブする「夢洲の庭」があり、過去・現在・未来に思いを馳せ、自然と人間の共生を再考する場となる。



### サテライトスタジオ東 時木(とき)の積層

野中あつみ (ナノメートルアーキテクチャー)

三谷裕樹 (ナノメートルアーキテクチャー)

倒れた御神木など不要になった「困った木」を集め柱に用いたスタジオ。多様な木を積み重ね屋根を支え、壁材には朽ちていく稲わらを取り付けた。木を建材として扱うだけではなく、その背景にある社会課題を認識できるようにした。



### トイレ7 島の蜃気楼

鈴木淳平 (PONDEGE) 村部 壘 (farm) 溝端友輔 (VOID)

3Dプリントされた樹脂パネルで構成され、光を不規則に反射させて蜃気楼のように広場に溶け込む建築。透過光で内部は明るく、人や環境に寄り添い表情を変える。会期後はパネルを粉砕・再加工されることを想定する。



見た目のおもしろさだけでなく背景を知れば、その建築のおもしろさがぐっと近づいてくるはず。各建築の前に辿り着いたら、ぜひ音声ガイドを再生して、そこに秘められたストーリーに耳を傾けてみて。

# TOTOギャラリー・間 展覧会「新しい建築の当事者たち」

## 建築家20組が対話を重ねて出てきた 思考や実践を紐解く 7つのキーワード

現在TOTOギャラリー・間(東京)では、大阪・関西万博に関わった若手建築家20組が、どのような思考のもとで作品を手掛けたのかを紹介する展覧会「新しい建築の当事者たち」が開催されています。彼らは、どんな視点で建築を生み出したのか? そんな好奇心とともに、それぞれの思考の過程を辿ることで展覧会では7つのキーワードが浮かび上がってきました。未来の建築を生み出すヒントにもなりそうな、その視点を紹介します!

© Junpei Suzuki Yuuki Nemoto



ポップアップステージ西  
「祝祭のための原初」



TOTOギャラリー・間での展示の様子 © Nacasa & Partners Inc.

### keyword 01 つくることを主体的に考える

「昔から使われてきたプリミティブな材料・土を使って、3Dプリンターなどを用いて、自らの手でつくることに関われぬか?という実験のようでもありました。これからも自分の身の回りにあるもので“つくる”ことに挑戦していきたい」(浜田/トイレ4)

「夢洲に建築を建てるのではなく、夢洲へ建築を貸し出すという視点で、福島県で材料加工・仮設をしました。開幕後はまた福島県へ移築します。開幕前と開幕後を含めた流れの“つくり方”を意識したんです」(佐藤/サテライトスタジオ西)



トイレ4「土の峡谷」



サテライトスタジオ西  
「イカダを作ってどうにか向こう側へ渡り、帰る」の模型

### keyword 02 みんなで自分ごとにする

「2年ほどかけて“困った木”を日本全国から集めるプロジェクトを行いました。ストーリーのある木を用いることで、さまざまな問題へとつながる建築の可能性を考えています」(野中、三谷/サテライトスタジオ東)

「積み木のような形にすることで、誰もが思い思いに組み換えていける、そんな設計を目指しました。移設や転用がしやすく、みんなが建築をつくることのできるんです」(米澤/トイレ5)



トイレ5  
「積み木のような建築」



サテライトスタジオ東「時木(とき)の積層」  
困った木の募集



ポップアップステージ北  
「森の途中」  
構造モックアップ模型



休憩所1「fuku fuku」

### keyword 03 五感を引き上げる

「生き物のような建築をつくることをいつも目指しています。建築の佇まいを見た時に、素材と建築の存在が切っても切り離せない関係性であることを理想としました」(大西・百田/休憩所1)

「風が可視化されるように、デッドストックとなったテキスタイルを使って毛皮のような表情を演出しました。視覚的にも風を感じ、五感が触発される建築ができたと思います」(大西・百田/休憩所1)

「森から切り取られた木を乾燥も製材もせずに構造体として成立させることで、木材が持っている質感や香りなど素材感をキープすることを意識しました。人間と建築の空間の本来あるべき姿を模索しています」(佐々木/ポップアップステージ北)

### keyword 06 素材を見つめなおす

「400年前に切り出された“残念石”と呼ばれる石を用いることで、時を経て人間が残した痕跡を感じ、歴史を振り返るきっかけになればと思いました。石のように自然のありのままの形を用いて建築することは、人間が自然と共にある未来をつかっていけるのではないかと考えています」(竹村/トイレ2)



トイレ2「地球の形跡」コンセプト模型

### keyword 07 遊ぶ、楽しむ

「機能性をもった建築の外側でいかに遊ばせるか、ということを中心に考えました。場所に遊び心を持たせることで、集う人が関わり合いはじめるような、そんなことを考えていました」(山田/休憩所3)

「トイレという機能的な設備に、概念的あるいは詩的なアプローチをしようと思ったんです。グラフィックデザイナーと協働して、ちょっと滑稽でユーモアのあるファサードのパターンを取り入れ、場所に愉快さを形づくりました。その視点を水や素材の持続可能性にもつなげています」(エスコベド/トイレ6)



休憩所3「静けさの森に隣接する休憩所」

#### INFORMATION

#### 新しい建築の当事者たち

会期 2025.7.24 Thu. - 10.19 Sun.  
開館時間 11:00-18:00  
入場料 無料  
会場 TOTOギャラリー・間

「EXPO 2025 大阪・関西万博」の休憩所他設計業務の公募型プロポーザルにて選ばれた、20組の建築家たちによるグループ展。模型や資料、映像を通じて、その奮闘の軌跡を紹介する。万博と本展示に向けて重ねた対話から浮かび上がった、新しい建築の当事者像に迫る。



公式サイトでは上記以外にも建築家自身の解説を聞ける動画がたくさんあります!





# 若手建築家と共に考える万博と「これからの建築」 議論から浮かび上がる 万博の建築の意義

茨木市にある文化・子育て複合施設「おにクル」に、建築家20組から8名が集まり、市民に開いた公開シンポジウムが開催。100名を超えるお客さんが集い、会の後半ではお客さんもお客さん交えたディスカッションが場を盛り上げ、暑い夜となりました。万博の建築を通して、改めて彼らが考えたことは？ 今回の万博だからできたことは？ 彼らの対話から、印象的だった言葉をまとめてみました！

若手建築家と共に考える万博と「これからの建築」

2025.8.24 Sun. @おにクル(茨木市)  
主催: JIA近畿支部

登壇者(順不同・敬称略)

休憩所2 工藤 浩平 トイレ5 米澤 隆  
休憩所4 新森 雄大 トイレ2 小林 広美  
サテライトスタジオ東 野中あつみ 三谷 裕樹  
竹村 優里佳

コメンテーター 倉方 俊輔  
モデレーター 水上 和哉  
司会 北條 豊和

INFORMATION

## 自分たちから 発信していくしかない

「(協会側が)発注したけれど、このプロジェクトについてはPRがない現状。自分たちから取り組みを伝える必要があったし、だからこそこうやって対話する場所が生まれた」(工藤)

「今回の“万博だから話せる”ということが。ガバナンスが機能していないことは、自分たちが発信していけるというポジティブな面は持っている。何か起きた時、矢面に立つことになってしまったけれど、みんなで話して検証していける」(米澤)



「未来を向いて新しいことを一緒にしてくれる人たちと、建築の歴史を少しずつ更新していきたい」(新森)

「施工者と教え合い学び合う関係が大事。投げかける、という行為が大切だと思います。わからないことに対しお互いがケアをする。シンプルだけど、そういうことが必要なのではと思います」(工藤)

やったことがないから無理。  
…とは言わないで欲しい。  
(施工者に求めることは？という問いより)



「施工者や職人さんと話しながらつくるために、設計に余白を残しながら始めました。でもそれをうまくやるには、スタートの時点でのコミュニケーションがすごく大切だと感じました」(大野)

「一般的には公共施設などを建てる時、余白を残さず設計し、不透明なリスクを残さないことが求められる。でもそれだと新しい建築は生まれません。今回は、叩かれても前例にないものをつくる、そういう覚悟を持ってやった部分はあります。全てが成功はしないかもしれないけど、それを応援するような寛容な社会をみんなでつくっていききたい」(米澤)

## 数字じゃない価値を、 みんなで生み出す

「建築は、技術やアート性、歴史性などを統合して体感や体験に落とし込めるものだと思います。入場者数や黒字になったかどうかだけでなく、どれだけ感動を生んだかなど、数字にならない価値も評価してほしいし、その評価を実際に体験しているみなさんと、残していきたい」(米澤)

「トイレ2では、3Dスキャンや3Dプリンターを使用したのですが、(巨大な石を使うという)超非効率のために技術を使っているんです！『無意味性』という人間が必要なものを取り戻すために、技術を使うことが重要だと思っています」(大野)



設計に  
余白を残した

非効率のために  
技術を使う

## 建築を通して 社会と会話する

「私は建築軸だけで考えることに限界を感じていて、今回のように使う素材を社会的な視点で見ること、広がりができた」(野中)

「アイデアは実現してなほ。実現したことで、今回は建築を通して社会と会話できるようになった」(米澤)



## 建築を万博を、 自分ごとにする

「今は建築のつくり方もカタログ化してしまっている。そこへチャレンジしたのが、僕たち20組だと思っています。でもそれは今回の万博自体にも言えるような。例えば万博の楽しみ方として、二次創作をしている人がいるなど、主体的に楽しみ方を考えている人がたくさんいる。大阪・関西万博は、鬱屈とした今の日本へのカウンターになっているかもしれない」(米澤)



建築は  
未来である  
(あなたにとって建築とは？という問いより)

「建築家の山本理顕さんの言葉に『建築は未来である』というのがあって、まさにそうだと思う。僕にとってはみんなで楽しみながら、未来をつくることなんです」(工藤)

「建築をつくることによって、次のステージが見えてくると思います。完成後は、使う人がその人なりの解釈をしてくれて、それによってまた世界が広がっていく。建築の永遠性にも興味があります。今回のように短期間の建築でも、建築があることで、その場所に対する信頼性が生まれ、自分の一生の時間軸を超えた前後に想いを馳せることができる。そういうところに興味があります」(竹村)

## 建築のつくり方

(今回の建築が、これからどうつながっていくか？という問いより)

「本来は建築で使う木材は規格サイズを基本としますが、サテライトスタジオ東の『積み柱』は、素材の長さや樹種を問わずに柱をつくることのできる、ということを実現しました」(野中)

「“建築のつくり方をつくった”と考えている。建築自体はいつかなくなってしまうものだけど、つくり方=レシピは、未来につなげられるもの。休憩所4のつくり方は、硬い地盤でもゆるい地盤でも再現できるレシピになったと思います」(新森)

をつくった

社会に発信する  
責任がある



「まず、なにより見るほうは、背景を知ったほうがより楽しい。建築は、時を経て使われ方も変わっていくものだから、使った時に初めて良さがわかるのではなく、そこにはどういう意図があるのか？ということに社会に発信する責任が、建築家にはあると思います。それによって社会に建築が持つ喜びを広げていける。建築を取り巻く状況を発信することで、みんなが考えるきっかけをつくることになる。どんどん発信してほしいですね」(倉方)



EVENT EXPO酒場でも建築家の声を聞けるイベント開催決定！

万博世代 Meetup #04 建築家の声を聞く！

2025/9/22 Mon.  
会場 EXPO酒場 キタ本店(ルクア大阪 B2F)

本誌の特集「建築家の声を聞け！」にあわせ、実際に建築家の声を届けるトークイベントを開催！ゲストに建築史家・倉方俊輔氏を迎え、若手建築家たちが手掛ける万博の建築20作品を、わかりやすく解説します。

イベントの最新情報は  
こちらから！



EXPO酒場公式Instagram  
@expo\_sakaba



夢洲に続々と集まる、世界の万博世代のみなさん。彼らが万博へ込めた想いとは？  
パビリオンのこと、自国のことを紹介してもらおうべく、各国のキーパーソンたちにインタビューをしました。  
The world's Expo Generation gathers at Expo 2025 Osaka, Kansai — what dreams do they bring?  
Meet the people behind the pavilions, their countries, and their visions.

本編はnoteへ!  
More on note!



# Malaysia マレーシア

Interviewee



案内人

マレーシアパビリオン ディレクター

エリザ・マストゥラ・  
アフマド・ハニピア

ペラ州ゴペン出身。マレー語で好きな言葉は「Sama-sama」。「どういたしまして」や「お互いさま」という意味。日本語の「どうぞどうぞ」みたいな、やさしい響きがあって、すごく好きです。ぜひ覚えてみてください!」

Director of the Malaysia Pavilion  
**Ellyza Mastura Ahmad Hanipiah**  
Born in Gopeng, Perak. Favorite word in Malay is "Sama-sama." "It means 'you're welcome' or 'we're in this together.' In Japanese, it feels a bit like 'douzo douzo'—gentle and kind. I really love that nuance. Please remember this word!"



## 13の州と3つの連邦直轄地で育まれた、 多民族文化のシャワーを浴びよう!

遠くにも目に飛び込んでくる、約5,000本の竹で囲われたマレーシアパビリオン。マレーシアの織物・ソケットの優雅な曲線をイメージした「リボン」を表現した竹の外観は、圧巻ながらどこか親しみをも感じてしまう。「隈研吾さんの設計で、外壁には京都の竹を使い、内装には私の地元でもあるペラ州ゴペンの竹を使っているんです。二つの国の自然の素材がこの建物の中で静かに出会い交わる、ハーモニーを生み出しています」と、エリザさん。「調和の未来を紡ぐ」をテーマにした館内は、食や自然による工芸品、テクノロジーなどさまざまな切り口から調和や共生における現在地を物語っている。まず入口として楽しめるのは、多様な民族が融合するマレーシア料理との出会い。「マレーシアはマレー人、インド人、中国人、イバン人、カダザン人など多くの民族が調和し、共存しています。そのためさまざまな味や食のスタイルがあり、日本の方にとっても、新しい発見があるはず。私自身、多文化の中で育ち、肌の色も宗教も違う友だちと一緒に学び、毎日を過ごしてきました。「違いを受け入れて共に生きる」という感覚が自然と身についたものです。パビリオンで文化の違いを感じながら、みなさんと共に過ごしたいと思います」

### Experience a shower of multicultural traditions, nurtured by 13 states and 3 federal territories!

From afar, the Malaysia Pavilion stands out with its striking exterior of about 5,000 bamboo poles. The bamboo "ribbon," inspired by the elegant curves of Malaysia's traditional woven fabric, songket, is both awe-inspiring and warmly inviting. "This design was created by renowned architect Kengo Kuma. The outer façade uses bamboo from Kyoto, while the interior features bamboo from my hometown of Gopeng, Perak. Natural materials from two countries quietly come together and intertwine within this building, creating a beautiful harmony," says Ellyza. With the theme "Weaving a Future in Harmony," the pavilion tells stories of coexistence and balance through food, nature-inspired crafts, technology, and more. As a first experience, visitors are welcomed by Malaysia's cuisine, born from the blending of many cultures. "Malaysia is home to Malays, Indians, Chinese, Ibans, Kadazans, and many other ethnic groups living together in harmony. That's why our food is so diverse in taste and style. For visitors from Japan, I'm sure there will be many new discoveries. Personally, I grew up in this multicultural environment—studying and spending every day with friends of different skin colors and religions. The spirit of 'accepting differences and living together' became second nature to me. At the pavilion, I hope to share time with everyone while embracing and celebrating our cultural differences."

### パビリオンについてもっと教えて! Tell us more about the pavilion!

活 気のあるナイトマーケットの雰囲気、みなさんをお出迎えます!私たちの多文化なアイデンティティを完璧に反映した、鮮やかな料理は、きっと見たことがない一品もあるはず。伝統的なボードゲームなどもあるので、ぜひ遊んでみてください。



We welcome you into the lively atmosphere of a night market. The colorful dishes on offer reflect Malaysia's multicultural identity, and you may even encounter flavors you've never seen before. Traditional board games are also available—so feel free to sit down and play.

### カフェで体験してほしいことは? What would you like customers to experience at the cafe?



□ ティ・チャナイの実演は、ぜひ見てほしいポイントの一つ。マレーシアから来たスタッフが生地を空中でクルクル回して焼く技には、パフォーマンスとしての誇りも感じられると思います。焼きたての香ばしさが、味わえますよ!

One experience not to be missed is the live preparation of roti canai. Our Malaysian staff demonstrate their skill as they toss and spin the dough in the air before grilling it—a performance they take great pride in. Freshly cooked, it's as delightful in toasty aroma as it is in taste.

### ゴペン暮らしの思い出といえば? What's your favorite memory of living in Gopeng?

い ろんな民族の子どもたちと一緒に過ごした子ども時代。かくれんぼや、ラウンダーズという遊びが大人気でした。ラウンダーズはバットとボールを使って走る、野球に似たゲーム。民族の境なく、みんなでワイワイ盛り上がるのが楽しかったです!

My childhood was spent with friends from many different ethnic backgrounds. Hide-and-peek and a game called Rounders were everyone's favorites. Rounders, a bat-and-ball game similar to baseball, always brought us together. It was so much fun to play and laugh as one, with no sense of ethnic boundaries!



▲リズムカルな音楽に合わせて披露されるステージパフォーマンスには、多文化とともに生きる人々の心を感じる。With rhythmic music, the stage performances capture the spirit of people living together across cultures.



# Serbia セルビア

Interviewee



案内人

セルビア共和国パビリオン館長  
マヤ・アントロヴィッチ

セルビア首都ベオグラード生まれ、アトランタオリンピックに水泳で出場し、セルビア史上最年少のオリンピックという経歴を持つ。日本への愛情から日本語・日本文学を専攻し、学位を取得。

Pavilion Director of the Republic of Serbia Pavilion  
**Maja Antolovic**  
Born in Belgrade, the capital of Serbia, and competed in swimming at the Atlanta Olympics as the youngest Olympian in Serbia's history. Studied Japanese language and literature out of a love for Japan and earned a degree.



### パビリオンについてもっと教えて! Tell us more about the pavilion!

これまで70万人を超える方がセルビア館を楽しんでいます。自分たちのアバターをつくるコーナーではアバターとの記念写真も撮っています。たくさんの方々と交流ができて嬉しい日々です。



So far, more than 700,000 people have enjoyed the Serbia Pavilion. In the corner where visitors can create their own avatars, taking commemorative photos with them has been very popular. Every day, we are grateful for the numerous opportunities to connect with people.

## キーワードは「遊び心!」 2027年に本国開催の万博への序章。

コンセプトは「Play(遊び)」、テーマは「Society of Play(遊びの社会)」。ここで言うPlayは「娯楽というよりも、もっとクリエイティブな視点です」と、マヤさん。「創造する力はイメージネーションを広げ、新しいアイデアを生み出し、社会を動かす原動力にもなるのです。そんな考え方を、館内のさまざまな仕掛けを通してワクワク体感できるようにしました。館内を歩きながら、感じたり考えたりできる空間です。たとえば、セルビアの伝統舞踊やスポーツ、建築や科学、デザインを通して「遊びの力」が紹介されています。輪になって踊るダンスや、体を使った遊びのセクションでは、仲間とつながる感覚やコミュニティの強さを味わえるでしょう。科学者や建築家のアイデアを紹介する展示では、子どもの頃に育まれた遊び心が大人になっても生きていることに気づかされます。想像力や共感が引き出され、人とのつながりを実感します。そして、このEXPO2025で伝えたいクリエイティブに満ちたPlayのコンセプトは、2年後にベオグラードで開かれる国際博覧会『Play for Humanity』にもつながるのです。遊びを通して、自分や世界をあらためて見直す—そんな『未来への入口』がここにあります。」

### Serbian's theme is Play! A gateway to EXPO 2027 in Belgrade, Serbia.

Our Pavilion's concept is "Play," with the theme "Society of Play." Here, Play is not just entertainment but a creative force that sparks imagination, generates ideas, and drives society forward. Through interactive exhibits—ranging from traditional dance and sports to architecture, science, and design—visitors discover how play builds community, inspires innovation, and connects people. This creative vision, "Play for Humanity," will continue at Belgrade Expo 2027, making the pavilion a true gateway to the future.

### 大阪の印象は? What is your impression of Osaka?



大 きな共通点に気づきました。それは「おもてなし」の文化です。セルビアの人々も来客を温かく迎えることを大切にしています。この精神は共通しています。I have noticed one similarity between Osaka and Serbia: it's a culture of hospitality. We also love to warmly welcome guests, and this spirit is something we share in common.

### セルビアを表すキーワードは? What is a keyword that represents Serbia?

セ ルビアに「粒が集まればパンとなり、石が積もれば宮殿となる」ということわざがあります。これは日本語の「千里の道も一歩から」と同じ意味ですね。私たちも日本人と同じく勤勉で、そんなセルビアの国民性を表している言葉です。



There is a Serbian saying that "Bread is made grain by grain, and a palace stone by stone." It carries the same meaning as the Japanese saying, "A journey of a thousand miles begins with a single step." Like the Japanese, we are hardworking, and this expression reflects the character of the Serbian people.

言ってみよう! 世界の言葉  
Say it out loud!  
Greeting Around the World

マレーシア編 - Malaysia Edition

国歌をイスラム教とするマレーシア。今回は特別に、現地の人が大切にしているこの言葉を紹介!

「Sama-sama (サマサマ)」 マレー語で「どういたしまして、お互いさま」の意

言ってみよう! 世界の乾杯  
Say it out loud!  
Cheers Around the World

セルビア編  
- Serbia Edition

「Živeli! (ジヴェリ!)」 相手の目を見て乾杯します  
Toasting while looking into each other's eyes.

# まちのパビリオン

大阪の街中で開催されるイベントや活動を「まちのパビリオン」として紹介。夢洲だけでなく、キタやミナミをはじめとした各所で何かが起きている！

EVENT

2025/9/22 Mon.

万博世代 Meetup #04

## 建築家の声を聞く！

会場 EXPO酒場 キタ本店 (ルクア大阪 B2F)

万博世代vol.4 特集「建築家の声を聞く！」にあわせ、実際に建築家の声を届けるトークイベントを開催！ゲストに建築史家・倉方俊輔氏を迎え、若手建築家たちが手掛ける万博の建築20作品を、わかりやすく解説します。



詳細はこちら！

2025/10/17 Fri. - 10/18 Sat.

## 「世界横丁」イベント開催！

日時 2025年10月17日(金) 17:00-20:00、  
10月18日(土) 10:00-20:00

会場 鞆公園 (広場周辺) 大阪市西区鞆本町

会場アクセス Osaka Metro 本町駅・肥後橋駅 徒歩約10分

世界の食や文化が集まる、異文化コミュニケーション満載のマルシェ「世界横丁」を開催します。万博の余韻から広がる、もうひとつの祝祭。お楽しみに！

demoexpoの  
Xアカウントで  
最新情報を  
キャッチ！



COLUMN

## Since 1970、万博の影に竹田あり 人生一度は万博だ。

Vol.3

### 「万博ロス」

文 / 竹田徹 元「EXPOST」編集人

1970年の夏休みの終わり、小学6年生だった僕は家族と大阪万博を訪れた。9月13日の閉幕まで2週間あまり。楽しかった万博もこれが最後になることは子どもでも分かった。夜、家に帰ることになり、万国博中央駅で乗ると、会場の様子を眺めるため窓にへばりついた。太陽の塔の目から放たれるビーム。ストロボランプが点滅するフランス館…。その時見た光景は今も鮮明に覚えている。しかし、不思議と「万博ロス」は感じなかった。万博以外に

も関心事が小学生にはたくさんあったのだろう。2学期が始まるとクラスの友だちも万博を話題にしくなくなった。今回はどうだろうか、7年前、大阪・関西万博の開催が決まってから2025年が訪れるのが待ち遠しかった。頼まれもしないのに万博を応援するタブロイド新聞「EXPOST」を仲間たちと発行したりもした。その大阪・関西万博もあと1か月で終わる。まあ、今から「万博ロス」を心配しても仕方ない。後で後悔しないよう最後まで万博を楽しむだけに。



万博をきっかけに集まる  
国内外の人々と、  
大阪の街の人々をつなげる場  
「夜のパビリオン」。  
今日はこちらをチェック！



## EXPO酒場本店

万博期間中、世界と日本が巡り交わり、キタとミナミの拠点酒場。飲食や音楽で万博気分を盛り上げます！  
A global bar for Expo-goers. Food, fun, and new faces await!



キタ KITA (NORTH)  
ルクア大阪 B2F  
(5PM-11PM)



ミナミ MINAMI (SOUTH)  
心斎橋PARCO B2F  
(5PM-11PM)



[ Instagram ]  
@expo\_sakaba

イベント最新情報は  
こちら

大阪の夜をおもしろくする人々と  
出会うプロジェクト  
**OSAKA  
YORUMON**  
大阪よるもん図鑑

愛すべき  
“街の顔役たち”  
続々と更新中！



## 森之宮の新名所、 未来モビリティ体験型テーマパークに 行ってみよう！

森之宮に誕生した「e METRO MOBILITY TOWN」は、未来のモビリティと都市をまるごと体験できる革新的テーマパーク。自動運転バスやバーチャル時空ツアー、未来の駅や街を描き出すシアターなど、驚きと発見の連続。遊びながら学べる新感覚の空間で、子どもも大人も未来への想像力を広げてみませんか？



詳しくは  
こちら！



### 営業時間

10:00-18:00 (木曜休園)  
2025年10月19日(日)まで開業

### 料金 アプリ購入がお得！

大人 1,320円 小児 660円  
未就学児は大人1名につき2名まで無料

### アクセス

Osaka Metro・JR「森之宮駅」から  
徒歩約10分



## 主要9駅 駅画像配信



## 駅の混雑がわかる、おでかけに大活躍！

駅のカメラで混雑状況をキャッチ！ピクトグラムでわかりやすく表示。

ダウンロードは  
こちらから



混雑？  
ゆったり？



Osaka Metro 公式アプリ イーメトロ



## 編集後記 文/山根シボル

万博開幕のずっと前、若手建築家たちが弊社に寄って各建築のコンセプトを説明してくれた際、「面白すぎるだろうこれー！」って衝撃を受け、絶対に世の中に伝えねばならんと誓ったのでした。やっとカタチにできてニコニコです。

## 万博世代を応援しています



協賛：真生印刷株式会社、新生紙パルプ商事株式会社  
協力：サンケイ総合印刷株式会社、大阪まちごと万博共創プラットフォーム



## 万博世代 vol.4 2025年9月13日発行

発行 一般社団法人 demoexpo

〒550-0003 大阪府大阪市西区京町堀 1-12-11 愛晃ビル 4F

デザイン：橘川真由子 (Neki inc.)

編集・執筆：小島知世

撮影：成田舞 (Neki inc.)

万博世代編集部：笹貴淳子、山根シボル

翻訳：宮外真理子、笹貴淳子

## 【配架場所】下記を含む80を超える施設で配架中！

- EXPO酒場キタ本店
- EXPO酒場ミナミ本店
- 大阪府立中之島図書館
- Osaka Metro (梅田、なんば、天王寺など主要駅20か所)
- 大阪市立中央図書館
- 大阪中之島美術館
- その他 大阪府下公共施設

配架先  
募集中！



配架先MAPはこちら！▶▶▶

●本誌掲載のデータは2025年9月13日現在のものです。●本誌掲載の情報は予告なしに変更になる場合があります。●本誌記載の記事、写真、イラスト、デザインの無断転載を禁じます。